

日本伝統治療(柔道整復術)指導者育成・普及プロジェクト 活動報告

国際部

【講習内容】

- ①ドルノゴビ県講習会 ②准医師スキルアップ講習会 ③JICA一般公開セミナー
④伝統的准医師クラス講習会 ⑤オルホン県エルデネト地方講習会

日程：平成27年8月24日～9月15日

派遣者：萩原 隆（国際部長）本間 琢英（プロジェクト・マネージャー）

根来 信也（国際部）田澤 裕二（国際部）金井 英樹（国際部）

横田 良介（宮城県柔道整復師会）浪尾 敬一（香川県柔道接骨師会）

奈須 崇倫（宮崎県柔道整復師会）

指導者候補生：エンフタイワン・トゥブシンバヤル、オユンバートル・ダリルチュルン、
ダシュラウダン・ボロルトウーヤ、バトムンク・アルタンエルデネ
ムンフバートル・ボロルチメグ

JICA草の根技術協力事業（パートナー型）日本伝統治療（柔道整復術）指導者育成・普及プロジェクトとして、今回も地方とウランバートルを拠点として講義を行った。モンゴル国東部に位置するドルノゴビ県での講習会では、41名の大医師および准医師が講習会に参加した。また再受講を目的としたスキルアップ講習会ではドルノゴビ県だけでなく近隣の県から計23名が集まり実施した。ウランバートルでは国立医療科学大学付属看護大学の伝統的准医師クラスの26名に対して講義を行った。

今回も指導者候補生に講義補助ではなく講義を部分的に任せ、当日の講義の振り返りや気付いた点などをアドバイスし指導方法の向上に努めた。これはプロジェクト終了後、指導者候補生のみで講習会を開催できるような指導法の習得が目的である。また彼らが今後モンゴル国において柔道整復術を普及していくためには、定期的な講習会の実施や柔道整復術を用いた臨床

データを管理、共有できる仕組みが不可欠で、各県の准医師・大医師など医療従事者と保健所の協力体制を整えることが必要であると感じた。

その他、指導者候補生の故郷であり、プロジェクト終了後活動の拠点となりうる地方においても講義を行った。参加者35名のうち半数が、日常手術によって外傷を治療する医師であったが、徒手整復は新鮮だったようだ。また柔道整復術の特色である自己完結型という医療体系は、「遠方で通院できない」、「経済的理由」、「外傷に対する病識の違い」など、モンゴル人が持つさまざまな問題によって治癒に至らない医療背景に対して、必要不可欠な技術であるとの意見もあった。

渡航最終日には、清水武則在モンゴル日本大使館特命全権大使ほかたくさんの方の来賓を招き活動報告会が行われた。この中でカウンターパートである国立医療科学大学バタバータル学長は「10年間の活動により柔道整復術のモンゴル国内での必要性が認知され、来年9月に柔道整復科を大学に設立する」と明言された。

また同大学アマルサイハン副学長からも「日本国同様高齢化が進むモンゴル国の社会背景の中で、手術を必要としない柔道整復術の教育が必要である」とのコメントをいただいた。

今回もTV取材を受け、後日放映された。講習会を行った県からも、再講習会開催の要望書が届き、現在までの活動により徐々に柔道整復術がモンゴルに認知されつつあることが実感できる渡航であった。

